

国重要無形民俗文化財指定

# 東郷文弥節人形浄瑠璃

源氏烏帽子折三段目

鞍馬下りの段

平成29年11月26日(日)

会場 東郷公民館ホール

[受付] 10時10分 [開演] 10時40分 [終演] 11時20分  
[入場料一般] 500円 [後援会会員] 無料

主催 東郷文弥節人形浄瑠璃保存会

後援 東郷文弥節人形浄瑠璃後援会/薩摩川内市/薩摩川内市教育委員会

薩摩川内市商工会/薩摩川内市観光物産協会/薩摩川内市文化協会/南日本新聞社/南日本放送/川内東郷販売所

連絡先 東郷文弥節人形浄瑠璃後援会(東郷公民館内) 0996-42-0864

# 東郷文弥節人形淨瑠璃

## 解説 三段目「鞍馬下りの段」

時は正月吉日、京の都・三条烏丸の烏帽子屋、五郎太夫の一人娘・東雲（しののめ）は、腰元達を相手に羽根つきを楽しんでいます。十五歳の春を迎えた東雲は、京人形のように美しい娘盛りです。

平治の乱に敗れ、命乞いをして鞍馬山の寺に預けられた牛若丸は今年十六歳、元服して一人前の武将となる為に、烏帽子を買いに五郎太夫の店に立ち寄ります。牛若丸の気高さとその美貌に強く心を打たれた東雲は、すっかり魅せられてしまいます。そこへ五郎太夫が帰つて来て、源氏方の若者であるとさとり、娘に奥座敷へ案内して大事にモテなすよう言いつけ、密告したる沢山の褒美がもらえると、密かに六波羅の役人、長田の庄司のところへ知らせに行きます。奥座敷では牛若丸に一目ぼれした東雲が、元服の祝言を上げてくれるようと、沢山の鳥帽子かけに、烏帽子や装束をつけ、生きた武将のような人形を作り、前途を祝っています。それを障子の穴から覗き見た五郎太夫と長田の庄司は、沢山の人形が生きた武将に見え、二人は恐れおののき、めし捕るどころではありません。そこへ源氏方の武将金王丸がとんできて、二人を成敗し、牛若丸の元服を祝い、自らも一差し舞うという物語です。

